

秋の能登路 ペダル軽快



ツール・ド・のと開幕

「第26回ツール・ド・のと400」能登半島一周サイバル・サイクル2014（同実行委、北國新聞社主催、県自転車競技連盟

内灘—輪島 全国から801人

共催）は13日、内灘町の県立自転車競技場を発着点に3日間の日程でスタートした。全国各地から801人が参加し、120・7キロ先にある初日のゴールの輪島市マリンタウンを目指し、能登路に銀輪を運んだ。

出場者は号砲とともに県立自転車競技場を出発し、日本海からの潮風を受けながら能登半島を北上した。宝達志水町の休憩ポイントでは、ナカヤマエッグがゆで卵を提供した。輪島市マリンタウンでは市職員によるメグスのつみれ汁が振る舞われ、出場者は仲間と一緒に疲れを癒やした。

大会には、34都道府県から83歳の1090人が参加。3日間で407・4キロを駆けるチャンピオンコースは44人、1日コースは計64人がエントリーしている。

開会式では、吉田仁北國新聞社営業局長、川口克則町長があいさつ。緩詰潔県自転車競技連盟会長が激励した。14日は輪島市から珠洲市などを経由して能登島へ、15日は能登島から氷見市、高岡市などを通り県立自転車競技場に戻るコースで行われる。

金沢の専門学校 誘導や受付手伝う
国際サイクル専門学校（金沢市）の1年生6人がボランティアスタッフとして初参加した。地元石川の大会を盛り上げ、運営の方法を学ぶため、学生はチェックポイントで、誘導や受付係を手伝った。

廣部凌也さん(22)は「出場者が多く、効率よく誘導するのが難しかった」と話した。6人は14日のコースに参加し、15日は再びボランティアスタッフとして運営を手伝う。



能登路を駆ける出場者
＝輪島市門前町



初日のゴールの輪島でつみれ汁を味わう
出場者
＝輪島市マリンタウン



快走する最年少の
出場者太田春人君
(中央)＝輪島市内

最年少8歳 家族と快走

珠洲の太田君

「やんと一緒に走っていると心強かった」とペダルに力を入れた。
午後6時10分、出発から9時間ほどでゴールに着いた。春人君は「楽しくて時間がたつのが早かった。来年も参加したい」と笑顔をみせ、健一さんは「体力的に厳しいと思ったが、わが子の成長を見ることができて良かった」と話した。